

退院後の患者様からの質問集

心臓血管外科部長 大橋 壮樹

新緑の季節となりましたが、皆様お変わりはありませんでしょうか。
さて、退院後の患者様からいろいろな質問をいただいておりますが、今回第二回目として、よく受ける術後の質問について解説をさせていただきます。

【退院後の質問集】

1. 外来にはどのくらいかかるのか

手術後約二週間以内に一度剖部の診察をさせていただいて、その後は定期的な診察になります。ももとの病気（高血圧、糖尿病、不整脈、高脂血症等）に対する治療、手術後の再発のチェックと予防が主となります。紹介患者様は紹介していただいた内科、循環器内科で診て頂く事をお勧めします。定期的な検査は一ヶ月あるいは二ヶ月に一回の診察となります。レントゲン、心電図を四ヶ月毎、超音波検査を六ヶ月あるいは一年毎にさせていただきます。機械弁を置換した弁膜症術後患者様でワーファリン投与を行なっている方は、ワーファリンの効き目を調べるために二ヶ月あるいは四ヶ月に一度血液検査（PT）を行ないます。手術で完治された方で、合併症が無い場合は特に通院する必要は無いと思われれます。

2. 剖部の糸が残ってますが

当院で使用する糸は溶けて消失するため抜糸する必要はありません。剖部のドレーンの場所の糸（二、三ヶ所）は、術後二週間以内に抜糸します。糸が残っているように見えても二ヶ月以内には消失すると思われれます。それでも糸が残っている場合は御相談下さい。

3. 傷口が痛む

傷口の痛みは個人差があります。全く感じない方から気になる方までいらっしゃいますが、痛み止めを飲むほどの方はいません。術後二ヶ月傷口の感覚はありますが痛みはほぼ消失すると思われれます。痛みの強い方は痛み止めの塗り薬もあります。御相談ください。

4. 仕事は

手術の回復によりますが、デスクワークなら三週間以降、軽作業なら一ヶ月以降で可能です。本来の仕事の復帰は二ヶ月を目安としています。

5. 運動はどうすれば

術後の運動は、回復を促進し、再発の予防にもなりますので、是非行なってください。運動は、歩行からジョギング程度で一日三十分以上は必要だと思います。二ヶ月以降は本来の趣味の運動、スポーツは可能となります。

6. お酒は

手術直後は、貧血、脱水も少しあり、お酒が回りやすいので控えて下さい。手術後三週間以降であればビール一杯からたしなむ程度で開始してください。お元気になるまでは、アルコールは御自身の適量にあわせていただければ、問題ないと思われれます。

7. 旅行は

手術後一ヶ月以降であれば旅行は可能と思われれます。車の運転は二ヶ月以降からお勧めします。二ヶ月以降は温泉も可能です。

8. 再発はしないのですか

狭心症で、冠動脈バイパス術を行った場合、別の場所が再発したり、バイパスをした血管が詰まったりすることもあります。手術後一年以内に再発してカテーテル治療を受けられる方が一～二%いらっしゃいます。十年以内に再発する患者様は、十～三十%といわれていますが、必ずしも再手術する必要のない場合もあります。心筋梗塞を起こされた場合、傷ついた一部の心臓はバイパスをして血のめぐりを良くしても全く元に戻ることはありません。しかし程度によりますが、心筋梗塞が再発する危険性は低いと思われれます。手術後は動脈硬化を予防する生活習慣に気をつけていただくことが、大事と思われれます。再発したとしても、早期発見、治療によりお元気に回復されると思われれます。

弁膜症、大動脈瘤手術後の再発に関しては次回にお話しします。

9. 造影検査は今後した方がいいのでしょうか

狭心症で冠動脈バイパス術をされた患者様は、バイパスした血管が、良好に働いているかどうか、他に冠動脈の狭窄が進行していないかどうかを、チェックする必要があり、造影検査は将来必要となります。狭心症の症状がある場合はなるべく早く検査する必要がありますが、症状が無い場合約一年後にされることをお勧めします。他院からの紹介の場合、紹介先の先生の御指示に従って下さい。最も大事なバイパス（内胸動脈バイパス）の血流は超音波検査で判定できますので、退院時にはその検査をして頂いております。

皆様がお元気で活躍されることを心からお祈り申し上げます。



体 験 談

「冠動脈バイパス術を受けて」

喉元から垂直に二十センチ、右足の内側を大腿部から踵に向かって七十センチ、それぞれに手術のあとが残っています。これは私の生命を保全するため、大橋ドクターが冠動脈バイパス手術にメスをふるわれた痕跡であります。その経過を日を追って述べます。

昨年十二月十八日、ドクターに造影検査を受けました。その結果、将来心筋梗塞の起こりやすい危険な状態であること、この防御処置は、バイパス術が最も適当である事等を承りました。一月五日、手術日を一月十八日と決定。十六日に入院する旨予約。一月十六日入院。ドクターより手術のあらまし説明、家族共々受ける。十七日は、術後のリハビリテーションを担当者から受ける。一月十八日手術。午前中の二時間で、右足大腿部内側を踵まで開き静脈を抜き取る。午後は、四時間をかけて胸部を開いて右足から抜き取った静脈を心臓の周囲に埋め込み冠動脈のバイパスを達成するという大変な手術です。以上、述べたのは、この日私が受けた手術のあらましですが、実は私には何一つ記憶がございません。十時に手術室に入室してから、すべてが終わって病室に帰り麻酔からさめるまで何も覚えていないからです。つまり、この手術は何の苦痛もなく、まか不思議のうちにすべて完了していたのであります。かくして、病室に引き上げて以来、たゆまない治療看護のお蔭で、日に日に快方に向かい、二十八日退院の日をむかえました。大橋ドクターを始めとする医療看護の皆様に深く感謝申し上げる次第であります。

奥村越太郎

私は長い間、不整脈で悩んでいました。お風呂に入ると不整脈が出るので、お風呂に入るのがこわくて恐怖症になっていました。夜中にも心臓がおどりと出すと、パジャマの上から細動が見えるほどで、度々徳洲会病院へかけ込みました。買い物に行ってもほんのわずかの道のりでも、帰り道で心臓が苦しくなり動けなくなったりして、不安な毎日を過ごしておりました。

一年五カ月前（九十八年九月）大橋先生にお会いして、手術をすすめて頂きました。大動脈弁狭窄症と大動脈弁閉鎖不全症との事で、人工弁を入れて頂きました。手術後すぐには、自分自身をコントロール出来ず、先生に我がままばかり言いましたが、その時先生は本当に優しく受け止めて下さり、決して高ぶることなく私を扱って下さいました。看護婦さんも同じように親切に扱って下さいました。私は、とても出来ない事だと思い本当に心から感謝しております。

今では、家事も出来るようになり、買い物も歩く運動をかねて毎日行く事が出来ています。今は、月一回の診察日に病院で先生や同じ手術を受けてお知り合いになれた人達と、お逢いするのがとても楽しみです。本当にうれしく、とても感謝しております。これからも、どうぞよろしく願い致します。

政原 久江

私は、手術をして頂きます前に九十四歳の兄に「俺は、心臓関係の手術をしてもらう事になった」と申しました処、「年をとってから大丈夫か」等と心配げに申しましたが、家の近くの先生から、徳洲会病院は優秀な先生ばかりで、特に心臓関係の先生は、素晴らしい先生である事を聞かされて居りましたし、その上デイクア会員を送迎して下さいる運転手さんからも、大橋先生は特技を持って居られる素晴らしい先生と聞いて居りましたので、爪の垢程の心配もなく、執刀して頂いた事がこのように早い回復につながったと自分自ら驚いて居ります。先生に頂きました命大切に致しまして、百才まで生きられますよう頑張ります。先生に改めて御礼申し上げます。先生には、お身体大切にされまして、多くの私のような人達を助けて頂きたく心からお願い申し上げます。

八十八歳 男性

私は、間もなく八十七才になりますが、これまでにあまり大きな病気をした事はなく、住まい近くの先生に、長年御世話になって居ります。その内、その先生から、「高蔵寺駅の近くに出来た徳洲会病院という大きな病院は、院内の先生がとても素晴らしい優秀な先生ばかりだし、又看護婦さんが、これまた何もかも行き届いた優しい良い看護婦さんだから、万が一手術や、入院の必要な場合はこの病院へ入院すると良い」と言われて居りました。

実は私は、去る平成九年七月三十日に、当病院のデイクアに参加致し、出席のたびごとに楽しい一日を過ごさせて頂いて居りました。今から平成六年か七年位前だったか良く覚えて居りませんが、住まい近くの先生から「貴方は、狭心症」と言われて居りました。その頃まだ痛くもかゆくも無かったので気になりませんでした。以前はオートバイ、この頃は自転車に乗って居り、水平な道は何ともありませんでした。しかし、ちょっとした坂道になりますと、ちょっと胸が苦しく（発作）なりますが、二、三分休みますとすぐ治りましたので、又乗るといった様な状態が続いて居りました。そのうち、段々と発作がひどくなり、住まい近くの先生の言葉を思い出し、この病院で手術を受ける決心を致しました。

住まい近くの先生から「病院も先生も優秀な先生ばかりだから」と伺って居りましたので、何の心配も無く気軽に手術を受けました事が、私の回復をこのように早めて頂いた事と、ただただ、感謝、感謝で他に言葉がございません。本当に有り難うございました。と同時に御世話になりました。

優しい看護婦さん方に厚く厚く御礼申し上げます。

匿名希望

平成十三年一月十四日午前二時三十分頃の事でした。息が止まったような感じがして苦しくなり目を覚ましました。胸が痛くて苦しくてとてもじっとしている事が出来ませんでした。今までに経験した事のない症状です。立ち上がってみたり、歩いたり、座ったり、トイレに行ったり、水を飲んだりしながら苦しみと戦っているうち、朝方五時半頃になって少しずつ苦しみが和らげられました。その間一睡も出来ず、早々にホームドクターである愛知クリニックへ行き、先生に症状をお話し診察して頂いた結果、高蔵寺の徳洲会病院で精密検査を受けるよう紹介されました。

精密検査、入院、手術の言葉が頭の中を駆け巡り、その場で先生からその事について色々お話をお聞きしたところ「徳洲会病院には、心臓外科専門の大橋先生がいらっしゃるから紹介するので、心配する事は何もない。安心して行きなさい」とおっしゃって下さいました。紹介状を頂いて家に帰り家族とも相談したのですが、その時点では、胸の痛みもすっかり忘れていたような状態だったので、すぐには徳洲会病院に行く決心が出来ませんでした。

一月二十二日、重い腰を上げて大橋先生に検査をお願いしました。自分一人で、勝手に想像していた先生とは全然違った優しく親切な先生でした。検査結果は、心臓の冠動脈三本が詰まっており、カテーテルの治療では不可能であるため、手術するのが最善の方法との事でした。大橋先生、看護婦長さんと今後の予定について打ち合わせ、二月二日に入院、手術は二月六日と決まりました。

入院してから、手術の日まで長いようでしたが、私には何ら不安感もなく短く感じたほどです。二月五日に大橋先生から、手術についての最終説明が私本人、主人、身内の者にありました。手術当日には、家族、身内の人達、看護婦さんに励まされ、手術室に入ってからの事はよく覚えておりませんが、ICU集中治療室で治療中に看護婦さんや、先生方にわがままな事を申し上げたようで、大変に申し訳なく恥ずかしく思っています。ICU集中治療室は二月九日に出て一般病室に移り、以後順調に回復し予想以上に経過良好であったため、二月二十一日に手術後二週間の短い入院日数で退院する事が出来ました。

現在は、自分でリハビリに励んでおりますが、手術後二週間という短期間で退院出来た事は私自身大変驚いて居ります。これも、大橋先生、ICU集中治療室の先生、看護婦さん、一般病棟の婦長さん、看護婦さん皆様方の高度な医療技術のおかげだと感謝いたしております。大変有り難うございました。

大橋 殷子

